



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

正直に生きる

旭町小学校副校長 吉井 広明

サッカーの国際試合で日本チームが外国チームと対戦しているときに相手選手がわざと転んだり、接触プレーで大して当たってもいないのに痛そうに寝転がったりする（本当は痛いのかも知れませんが）様子を見ると嫌な気持ちになります。もし、そこで審判がファウルをとったらそれを見ている子供たちがまねをしてしまわないかと心配になります。

以前読んだ本で「四知（天知る、地知る、我知る、人知る。）」という言葉を知りました。以下のような話です。中国に昔、楊震という役人がいました。ある夜、楊震に賄賂を届けに来た男がいたそうです。男が言うには「誰も知りませんからどうぞ受け取ってください。」それに対して楊震は、「天が知っている。地が知っている。私が見ているし、あなたも知っている。誰にもわからないということはないでしょう。」と言って断ったそうです。

私は、日本人学校で教員をしていた関係で香港に住んでいたことがあります。ある日タクシーに乗ると運転手が「おまえは日本人か、俺は日本人が好きなんだ。」と話しかけてきました。「そうですか、ありがとうございます。」と受け答えをしたのですが、その運転手はおしゃべりに夢中でメーターを倒すことを忘れていたのです。私が、「メーター倒し忘れてますよ。」と教えると運転手はメーターを倒した後に「だから日本人は好きなんだ。ほかの人ならきっと黙っているよ。」と言ったのです。いよいよ帰国することになり、借りていた部屋を出て行くことになった時、家賃の精算をするためにオーナー会社に連絡を取りました。（家賃は後払い方式です）手続きをしている途中で会社の人から「日本に帰国するんでしょ。それなのに何でお金を払って出て行くんか。外国に行ってしまうばわからないから普通なら家賃は踏み倒して行くだろうに、日本人は真面目だな。」と半ばあきれ顔で言われました。この経験から日本では当たり前前のことが、世界ではそうでもないのだということを知りました。そして、この二人の香港人の日本人観は私以外の多くの日本人が関わったことから築かれていったものなのだと思います。昔話でも正直者が得をする話が多くあるように昔から日本人は正直を美德とする考えがあったのではないのでしょうか。

世の中そんなにうまくはいかないこともあります。正直に生きるのは日本人の良さの一つだと思います。オリンピック・パラリンピック教育では外国の文化について学ぶとともに日本の良さについても学習します。様々な学習の場を通して正直に生きることの大切さも伝えていきたいと思っています。